

自然環境観察員制度とは？

自然環境観察員制度は、相模原市の自然環境を調査し基礎データを集め、現状や変化をとらえていく中で環境保全に対する意識を高めていくことを目的としたボランティア制度です。現在 94 名が自然環境観察員として登録され、学習や調査活動に取り組んでいます。

今年度は全体調査として都市化の程度と関係する在来・外来タンポポの分布と、その地域の自然環境の特徴をあらわす指標となるジョロウグモの調査を行いました。また、植物、野鳥、湧水、河川生物相の 4 つの専門部会があり、それぞれがテーマをもって調査や観察会を実施しています。

植物調査部会

年間を通じて市内の各所に行き、植物の観察や調査を行っています。今年度は城山や石老山などに足を運び、珍しい動植物を見ることができました。



湧水調査部会

この部会では豊水期（夏）と渇水期（冬）の調査と 8 か所の通年調査を行っています。湧水地の周りには水生生物やいろいろな植物が見られました。



河川生物相調査部会

夏に相模川と境川の河川生物相の調査を行っています。そこで見つかる生物によって水質階級を判定します。童心に返ったように楽しく調査をしています。



野鳥調査部会

年に 4 回、ルート調査と定点観察を行っています。今年度はセンターの周辺でアオサギや鷹類の姿を確認することができました。



市内のタンポポを調べました

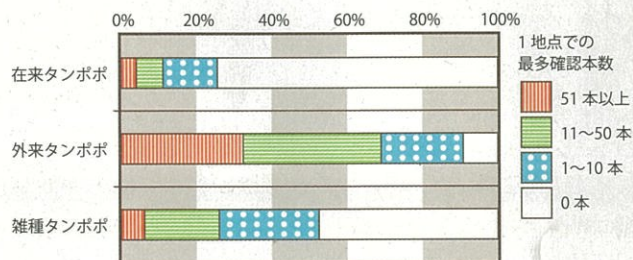
昨年の 3 月から 5 月にかけて、旧相模原市内を 334 のメッシュ (500m 四方) に分けて、タンポポの種類、本数などを調査しました。

雑種タンポポ (在来タンポポと外来タンポポが交雑したもの) は見た目では在来タンポポと見分けがつかない場合があるため、花粉を顕微鏡で観察し種類を特定します。その結果、外来のタンポポは 91% のメッシュで確認されましたが、在来タンポポはメッシュの 26% でしか確認されませんでした。

相模原で道路の舗装や造成などにより人の手が入った場所が多くなり、在来タンポポが生えにくい環境が増えたからだと考えられます。

詳しい調査結果が知りたい人は、環境情報センターまで。

種類別タンポポ 確認メッシュの割合

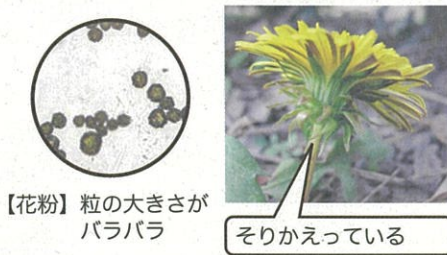


在来タンポポ カントウタンポポなど昔から日本で見られたもの



【花粉】粒の大きさがそろっている

外来タンポポ セイヨウタンポポなど外国から入ってきたもの



【花粉】粒の大きさがバラバラ

あなたも自然環境観察員になって一緒に活動しませんか？ 今年度は 3 月から 2011 年度の自然環境観察員の募集が始まります。自然に興味のある方、勉強してみたい方など、経験がなくても大丈夫。市内在住、在勤、在学の中・高生以上の方が対象です。詳しくは環境情報センターへお問い合わせください。

本紙は環境に配慮し、ベジタブルインクと再生紙を使用しています。 イラストレーション アトリエ福楽

編集後記

今号では生物多様性をテーマにしましたが、いかがでしたか。私たちはかつて多くの動物や植物と共に暮らし、様々な命のつながりの中でその恵みを受けながら生活してきました。しかし近年人間の活動によって環境が激変して、身近な生き物といえ思い浮かぶのは犬が猫かハムスター？

まずは身のまわりのペット以外の生き物にも興味を持ってください。道端の雑草の小さな小さな花もじっと眺めるとびっくりするくらい精密で美しいものです。どの命も一生懸命生きています。休みの日にはちょっと足を延ばして本紙で紹介した津久井湖城山公園などに出かけてみてはいかがでしょうか。昆虫や野鳥、樹木や草花、自然とふれあうことで新しい発見や出会いがいっぱいあると思います。自然の中でこんなもの見つけたよ〜と環境情報センターに教えてくれるとうれしいです！

相模原市立 環境情報センター

〒252-0236
相模原市中央区富士見 1 丁目 3 番 4 1 号
■ E メール kankyo@eic-sagamihara.jp
■ ホームページ http://www.eic-sagamihara.jp/
■ 開所時間 午前 9 時〜午後 5 時
■ 休所日 毎月第 3 木曜日、年末年始、施設点検日

お気軽にご利用ください

お問い合わせは…
TEL. 042-769-9248
FAX. 042-751-2036

交通
JR 相模原駅から… ① 徒歩約 20 分
② バス「市役所前」下車徒歩 1 分
「ウェルネスさがみはら前」下車すぐ
JR 上溝駅から… ① バス「市役所前」下車徒歩 1 分



ケロケロ カエルの合唱団が**解散の危機!**?

最近カエルを見たり、鳴き声を聞いたりしましたか？ 実はカエルは絶滅危惧種になっています。このままだとあの「ケロケログワッ」の鳴き声が聞こえなくなる日がきてしまうかもしれません。その他にも**私たちが暮らす相模原で今、多くの生き物が絶滅の危機にある**んです。いったいどうして絶滅してしまうのでしょうか？そして、生き物が絶滅するとどのような影響があるのでしょうか？

相模原市で「絶滅危惧」とされる生物の一例



また、外国など別の土地からやってきて、増えすぎてしまった生物もいます。よそからやってきた生物を外来種、元々いた生物を在来種といいます。

相模原市で繁殖が認められる外来種の一例



外来種が、在来種にどんな影響を与えるのか、考えてみましょう。また、どうして外来種が野生化して増えてしまったのか、理由がわかるかな？



実は、日本は多様な自然に恵まれ、生き物の種類も大変多く、世界的にも注目されているんだよ。この自然を大切に守らなくちゃね。

豊かな自然に恵まれた日本

日本には、約 9 万種の生物がいると言われています。植物は 5~6 千種。それは、日本の陸地の 7 割が森林におおわれていること、海岸の地形が複雑であること、複数の海流が交ざる場所であることなどが理由だと考えられています。

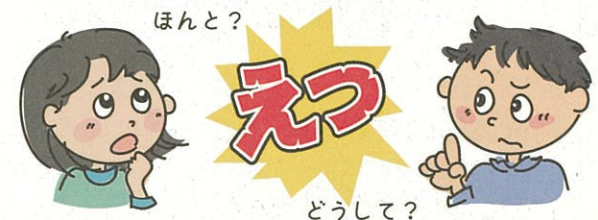
また、固有種 (その土地にしかない生物や、その土地で独自に進化した生物) の種類は 131 種 (ほ乳類、鳥類、は虫類、両生類の合計)。この数は、生物の種類が多いと言われているガラパゴス諸島の 110 種を抜き、世界一と言われています。

相模川が育む相模原のほ乳類たち

相模原を流れる相模川では、河川敷や、隣接する農耕地でアズマモグラ、ジネズミ、イタチなどが確認されています。

また、相模川から続く段丘林ではノウサギ、ムササビ、キツネなどが、山地ではツキノワグマや、アナグマ、テン、イノシシなどが確認されています。

相模川を軸に、段丘から山地へと変化に富んだ多様な環境がたくさん動物たちの命を支えています。



昔はどうだったかな？まわりの大人や近所のお年寄りにも、昔の相模原市の様子を聞いてみよう。

かけがえのない生き物同士のつながり 生物多様性

人間を含め地球上の生き物は、お互いに支え合い、つながり合っています。そのつながりによって保たれているのが生物多様性です。生物多様性から得られる恵みは、①食べ物、家や衣服の材料、石油、薬などを供給してくれる資源供給サービス、②災害を防ぐなど快適に暮らすため環境を整えてくれる調整サービス、③ハイキング、キャンプなどを楽しんだり、美しい自然に親しむことで心の豊かさをもたらしてくれる文化的サービス、④それらを生み出したり、維持するための基盤サービスがあります。生物多様性によって豊かな自然が保たれ、その自然の恵みから、私たちはたくさんの大切なものももらって生きています。ところがいま、かつてないスピードでたくさんの生き物が絶滅の危機にあり、生物多様性が失われつつあります。そして、その原因の多くは私たち人間の活動にあるのです。

多くの生き物の絶滅により、生物多様性が失われています

現在、地球上にはわかっているだけでも **3,000万種**の生物がいます。そのうち、**1年間で4,000種**が絶滅していると言われています。

なぜ生き物は絶滅したり、絶滅の危機に追い込まれたりしているのでしょうか？ その理由は、以下のように考えられています。

地球環境のことを考えて行動しよう。

旬のもの、地元のもの食べる。省エネ・省資源を実践する。生物多様性に配慮した商品を買うなど毎日の生活の中で、ひとりひとりが意識して行動することが大切です。

商品には、環境に関するいろいろなマークがついています。

MSC マーク

海洋の自然環境や水産資源を守って獲られた水産物(シーフード)に与えられる認証エコラベルです。



FSC マーク

適切に管理されている森林からの木材を使っている製品につけられるマークです。



他にどんなマークがあるかな？



私たちがどんな商品を選ぶのかは、企業の考え方に大きな影響を与え、自然を守ることに繋がります。

© 1996 Forest Stewardship Council A.C.

ペットは最後まで責任を持って飼おう。

外国産のカブトムシやミドリガメ、アライグマなどペットとして飼われていた生き物が放され、繁殖し、地域の生態系を壊していることがあります。ペットショップで買った生き物や外国の生き物は自然に放したりせず、最後まで責任を持って飼いましょう。

本来いなかった動物が増えて、カエルをたくさん食べてしまうと...

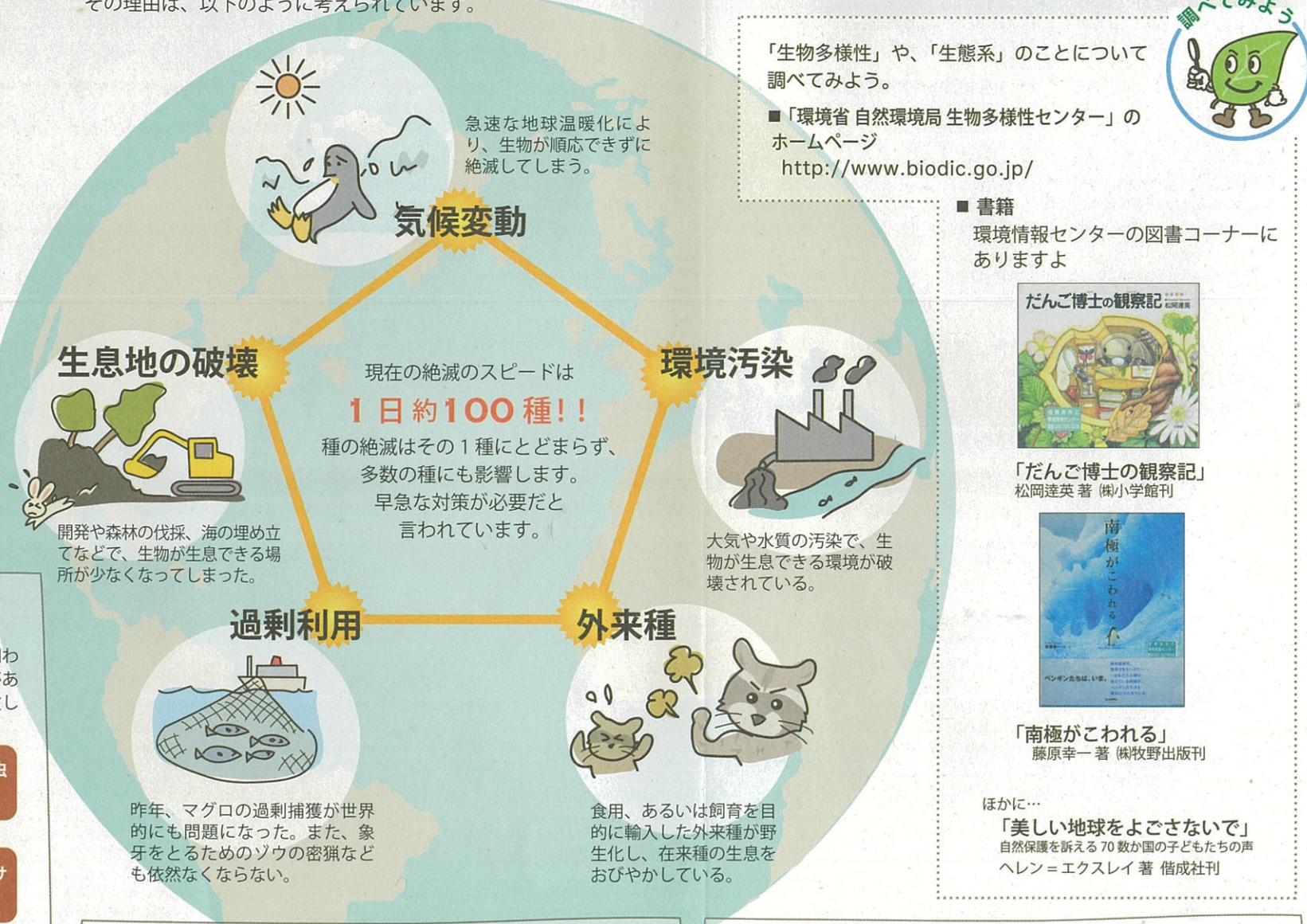
カエルのエサになっていた昆虫などが増えすぎる

昔からその土地でカエルをエサにしていた動物がいなくなる

アライグマはもともとペットとして飼われていたものが放されて自然に繁殖したもので、カエルもたくさん食べているようです。



私たちにできることはなんだろう？ 家族や友だちと話し合おう



「生物多様性」や、「生態系」のことについて調べてみよう。

■「環境省 自然環境局 生物多様性センター」のホームページ <http://www.biodic.go.jp/>



書籍

環境情報センターの図書コーナーにありますよ



「だんご博士の観察記」 松岡達英 著 (小学生館刊)



「南極がこわれる」 藤原幸一 著 (講談社出版)

ほかに...

「美しい地球をよごさないで」 自然保護を訴える70数か国の子どもたちの声 ヘレン=エクスレイ 著 偕成社刊

環境保護のための活動や技術に関心をもとう。

企業や地域の人たちが地球環境を守る上でどのような活動をしているか調べたり、参加したりしてみましょう。

アリオ橋本

アリオ橋本では、省エネ設備や太陽光・風力発電などを導入しています。たとえば、館内の照明の約7割をLED照明にしたことで、従来の照明と比較して年間約554トンのCO2削減が見込めるそうです。



太陽光発電... 店舗南側壁面、ほか

風力・太陽光発電付外灯... 南側店頭に10基

※発電状況や、その他の取り組みは1階「橋本駅副口」横の「ECO&UDブース」で紹介されています。

■相模原市緑区大山町1-22 ■tel.042-779-8111

※電話番号、営業時間はイトヨーカドーのもので、一部店舗は異なる。

自然にふれあえる公園に行ってみよう。

自然の恵みに感謝の気持ちを持って、身近な自然とふれあいましょ。そして、木や草花を大切に、ごみを捨てないなど、自然を大切にしましょう。

神奈川県立津久井湖城山公園

「水の苑地」「花の苑地」「根小屋地区」に分かれ、根小屋地区では自然とふれあう様々なイベントが開催されています。



■相模原市緑区根小屋162 (管理事務所)

■tel.042-780-2420 ■9:00~17:00

■<http://www.kanagawa-park.or.jp/tsukuiyoshiroyama>

八王子市長池公園

■八王子市別所2-58 ■tel.042-678-4616 ■9:00~17:00

神奈川県立自然環境保全センター

■小田急線「本厚木駅」よりバス。「馬場リハビリ入口」バス停下車、徒歩約10分

■tel.046-248-0323 ■9:00~16:30



ボーイスカウト相模原第7団カブ隊 「調べよう! やってみよう! エコ活動」

私たちボーイスカウト相模原第7団カブ隊は、主に中央区に住む小学3・4・5年生の男女25人で構成されています。ちなみに「カブ」とは、狼や熊など獣の子どもという意味で、立派なスカウトになるため、いろいろな野外活動や奉仕活動をしています。



今年の活動テーマは環境です。

6月には、空気の汚れの調査を行いました。橋本と影信山山頂の窒素酸化物の調査では町の方が少し汚れているという結果がでました。

夏のキャンプではソーラークッカーという太陽の光で料理ができる道具を使ってお湯を沸かしたり、ポップコーンを作ったりしました。「太陽の力ってすごい!」とみんな驚きました。



10月には水の調査です。境川の源流と橋本駅近辺でCODやpHなどを調べましたが、私たちの生活の影響なのか下流の水は汚れていました。

水や空気が汚れていることはなんとなく知っていたけれど、科学者みたいに調査すると、汚れが数値ではっきりわかるので驚きです。

これからも原因をみんなで調べ、地球のためにできることを考え、行動していけるよう、しっかり活動していきたいです。



ボーイスカウトでは一緒に活動する仲間を募集しています。問い合わせは042-772-0830 (田所ゆかり)まで。



環境のちよこつと話 No.13

「ゴミに恩恵をうける野鳥と被害をうける野鳥」

市内に多くいるカラスには2種あることをご存知でしょうか?とてもよく似ていますが、くちばしが太くて体の大きな「ハシブトガラス」とくちばしが細くて体の少し小さい「ハシボソガラス」です。市街地のゴミ収集場所でゴミをあさっているのは、ほとんどハシブトガラスです。人間の出す生ごみを食べることによって増えた都会のハシブトガラスはツバメの巣を襲い雛(ひな)も食べています。その結果町の中のツバメが少なくなったといわれています。

ヒヨドリやメジロは木に巣を作りますが、巣材としてビニールひもを利用することがあります。また、ハシブトガラスはハンガーをよく使います。

一方でゴミに困っている鳥もいます。釣りに使われるテグスが川や海岸によく落ちていますが、これは大変強くてなかなか切れません。足にテグスがからまったカモメの仲間は、足がくさって落ちてしまい、片足になってしまう事がよくあります。また、落ちているテグスやひもに体がからまって木の枝から宙づりになって死んでしまう鳥もいます。

ゴミにより特定の種類の鳥が増える事から、他の種類に悪影響が出る事もあります。また、ゴミにより被害を受ける鳥もいます。ゴミ対策は野鳥の保護のためにも必要なことです。

